

元気塾  
塾生募集

# 私の防災準備講座 ひとごと 他人事ではない、いつかくる！自然災害。 (全4回)

いつかくる！自然災害に備えて  
私にできる、私たちにできる防災準備講座を開講します！

異変や異常に直面しても「自分だけは大丈夫」と思い込んでしまう私たち。その思い込みはどこからくるのでしょうか。一昨年の熊本地震、昨年7月の九州北部豪雨による朝倉水害、そして平成30年7月豪雨。もう他人事ではありません。実際に被災をされた方や、長年、災害支援や地域の防災体制づくりに取り組んでいる方々を講師に、地域の仲間と共に学び、直面する防災に活かせるよう工夫した講座内容です。

10/28(日)  
開講!

元気塾限定ツアー 元気塾開講期間の平日、市内の福岡県消防学校体験会予定♪

会場

夢サイトかほ文化ホール  
嘉麻市大隈町1228-1 TEL (0948)57-0080

参加  
無料

手話通訳  
あり

託児  
あり  
(無料)

対象者

元気塾生…地域での防災に関心のある女性  
20名～30名程度

※公開講座に付いては、一般市民(男性も含む)も受講可能

★要予約 ※各講座の10日前  
までにご予約ください

★5名程度

●この事業は、福岡県が(公財)福岡県女性財団(福岡県男女共同参画センター「あすばる」)に委託して実施している「女性による元気な地域づくり応援講座事業」=元気塾です。

●主催:「みんな(男女)でできる防災」実行委員会(かま男女共同参画推進ネットワーク/行政区長/嘉麻市)

●共催:福岡県男女共同参画センター「あすばる」

●問合せ:TEL 0948-53-1120(嘉麻市男女共同参画推進課)

講座の内容  
申し込みは  
裏面をご覧ください

# 目 次

## 【私の防災準備講座「他人事ではない、いつかくる！自然災害」】

### 【報告書】

- 第1回（H30年10月28日開催）・・・レジュメ  
参加状況  
講師の資料  
アンケート集計結果  
かま元気塾レポート （ P1 ～ P10 ）
- 第2回（H30年11月24日開催）・・・レジュメ  
参加状況  
講師の資料  
アンケート集計結果  
かま元気塾レポート （ P11 ～ P18 ）
- 第3回（H30年12月8日開催）・・・レジュメ  
参加状況  
講師の資料  
アンケート集計結果  
かま元気塾レポート （ P19 ～ P27 ）
- 第4回（H31年1月19日開催）・・・レジュメ  
参加状況  
講師の資料  
アンケート集計結果  
かま元気塾レポート （ P28 ～ P42 ）
- 朝倉現地視察レポート・・・・・・・・・・（ P43 ～ P45 ）
- 広報嘉麻掲載記事・・・・・・・・・・（ P46 ）
- 消防学校体験ツアー・・・・・・・・・・（ P47 ）
- 講座修了後の塾生，受講生，実行委員のみなさん・・・・・・・・・・（ P48 ）

他人事<sup>ひとごと</sup>ではない、いつかくる！自然災害 私の防災準備講座【第1回】

2018年（平成30年）10月28日（日）

夢サイトかほ 文化ホール

13:00～ かま元気塾 開講式

- ① 「みんな（男女）できる防災実行委員会」実行委員長あいさつ
- ② 開催市 嘉麻市長あいさつ
- ③ 福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長あいさつ
- ④ 来賓紹介、ご挨拶→県議1名・市議7名、消防団副団長に出席いただきました。  
来賓を代表して県議よりご挨拶を頂戴しました。
- ⑤ かま元気塾講座概要説明（嘉麻市防災情報を防災対策課長より説明）

休 憩

14:00～ 公開講座

～途中休憩含む2時間の予定～

「みんなの力で災害に備える、命を守る」

講師：静岡大学教育学部教授、同大 防災総合センター兼任教員  
減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表

池田 恵子さん

青年海外協力隊員、JICA技術協力専門家（開発とジェンダー）などとしてバングラデシュやネパールで環境保全や防災の事業に社会・ジェンダー配慮の視点を組み込み活動に従事。2000年より静岡大学教育学部教員。

次回講座案内、他、お知らせ アンケート記入

16:30 終了

<メモ>

第1回 平成30年10月28日開催 かま元気塾開講式・公開講座「みんな（男女）の力で災害に備える、命を守る」静岡大学教授 池田恵子さん  
 参加状況 受講生51名（実行委員含む）・来賓12名（県議1名・市議7名・消防団1名・あすばる2名・市長代理）

『平成30年10月28日開催 かま元気塾にて』

【あすばる館長あいさつ】



【来賓 県議あいさつ】



【嘉麻市防災情報】



【講師と受講生】



【グループワーク】



【嘉穂アルプス】



### 1. 嘉麻市災害危険指定箇所

「土砂災害警戒区域」土砂災害のおそれがある区域→ 537箇所

「土砂災害特別警戒区域」

上記のうち、建物等に損壊が生じ、住民等の生命または

身体に著しい危害が生じる恐れがある区域→ 508箇所

<河川>

県管理区間で溢水のおそれのある最も重要な区域 山田川1か所

国土交通省管理区間の水防上最も重要な区域 遠賀川7箇所

### 2. 嘉麻市の防災組織現状

平成30年4月1日現在

- ① 消防団員数 (688名)                      うち女性消防団員数 (11)
- ② 自主防災組織 (8 団体)                      女性役員がいる組織 (7)
- ③ 嘉麻市防災会議の女性登用比率              女性6：男性20      23%

### 3. 7月5日豪雨に関すること

- ① 災害被災状況                                      平成30年9月1日現在

人的被害      負傷者2名(内1名、重症)  
 住家被害      全壊2、半壊7、一部損壊1、床上浸水26  
 非住屋          公共建物1(小学校)、その他2  
 道路            損壊3、埋没19、冠水13  
 橋梁            損壊1  
 河川            溢水3  
 土砂災害      がけ崩れ99  
 断水            10 (道路陥没により)

- ② 上記の災害支援措置                              平成30年9月13日現在

災害見舞金交付      36件  
 市民税の減免          40人  
 国民健康保険税の減免      13世帯  
 固定資産税の減免      25世帯  
 保育料の減免          1世帯  
 後期高齢者医療保険及び一部負担金の減免      21世帯  
 介護保険料及び利用者負担額の減免      28世帯  
 し尿処理手数料の免除      498件  
 水道料金の減免      47件  
 被災証明書発行      43件  
 健康相談              4件

- ③ 避難所開設  
 (23施設)(300世帯)(576人)      女性363      男性213

- ④ 社協による災害ボランティアの依頼      25件

- ⑤ その他      災害ゴミ 74t

### 4. 備蓄

今年度納品完了後(発注中)

毛布 1,200枚、 非常食 1,800人分、 飲料水 1,900人分

# かま元気塾「私の防災準備講座」

平成30年度 福岡県女性による元気な地域づくり応援講座事業

2018年10月28日(日) 夢サイトかほ

みんな(男女)の力で!

災害に備える・命を守る

池田 恵子

(Ikeda.Keiko@shizuoka.ac.jp)

静岡大学教育学部 教授同防災総合センター 兼任教員  
減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表

## 防災・復興政策における男女共同参画・多様性配慮の 視点近年における政策上の変化

政策や現場対応は、

被災地の女性たちの声によって前進してきた

2005年:

「防災基本計画」男女双方の視点、男女共同参画の視点

「第2次男女共同参画基本計画」防災分野

「兵庫行動枠組」ジェンダーの視点

2004年: 中越地震

女性職員派遣

相談窓口開設

2011年: 東日本大震災「女性支援」

2012年: 「防災基本計画」改定

女性や高齢者、障害者などの参画女性  
や多様な人々のニーズ

2013年: 内閣府男女共同参画局

「男女共同参画の視点からの防災・復興  
の取組指針」

2015年: 「仙台防災枠組」

1995年: 阪神淡路大震災

初めて課題が認識される

担い手としての女性・リーダーシップ

# 災害の影響は、男女で異なる

男女では

生物学的違い

責任や役割の違い

災害時に  
直面する困難と  
支援ニーズが  
異なる

①避難行動

②避難生活の環境

③物資

④健康状態

⑤安全・治安

⑥子育て・介護・家族の世話

⑦働く・稼ぐ

⑧避難所運営などへの参加



# 多様な避難者がいます・多様な避難生活があります

静岡県「避難生活の手引き」より  
ベストは、自宅で生活し続けられる対策を取っておくこと。  
でも、もし避難しなければならぬとしたら。。。。。

あなたならどうする？

多様な避難生活

縁故避難  
(家族、親戚、友人、知人)

在宅避難  
(車庫等、敷地内の居住)

テント泊・車中泊避難

避難所へ避難



【平成30年度「女性による元気な地域づくり応援講座事業」かま元気塾アンケート集計結果】

(開催日/平成30年10月28日)

参加者数(51名)

アンケート数(29) 回収率(57%)

■年代	20代 (2)	50代 (6)	無回答 (1)
	30代 (2)	60代 (7)	
	40代 (4)	70代 (7)	

■性別	女性 (18)	男性 (8)	無回答 (3)
-----	---------	--------	---------

■市内	(19)	市外 (8)	無回答 (2)
-----	------	--------	---------

■講座の案内をどこで知ったか。					
広報嘉麻	(1)	チラシ	(4)	友人等から	(8)
あすばる	(1)	主催者から	(13)		

1. かま元気塾の開講式についての感想、または心に残った言葉

- ・「女性」であるということ、改めて意識した。共同参画が大切な言葉と思った。
- ・行政と民間が連携しての取組みがとても素晴らしいことだと思う。
- ・いつか大きな災害が来てもおかしくない。
- ・地域の住民たちの交流活動をもっとやっていくことが大事だと思う。今は隣近所の人はどうなっているのかコミュニケーションが足りないと思う。
- ・経験したことのないような災害を想定して準備することが必要。
- ・誰もが関心を持つ。防災をテーマにされたことで男女共同参画担当課だけでなく、防災担当課も協力して取り組まれている点が素晴らしいと思った。
- ・多くの機関や人々が関わっていることが伝わり良かった。
- ・災害に備えて地域で災害対策に備えることが大切なことであるが、未だ身の振り方を考えていないので、今後地域の皆さんとコミュニケーションを図って災害に強い地区にしたい。
- ・地元の女性団体と行政が連携し、大きな力が発揮できるのでは。
- ・災害が他人事ではない。男女関係なく力を合わせ対策するうえで大事なこと、良いことだと思う。
- ・市内の災害状況がわかりやすい説明で良かった。
- ・防犯ポスターで、「一人歩きは注意」とするのではなく「みんなが見ているので犯罪を犯すな」等と作成すること。

2. 講座の内容について

①よくわかった(25)      ②あまりよくわからなかった(2)      ③難しかった(2)

- ・具体的な事柄が参考になった。
- ・男性からだけでなく女性からの目線が大切だと実感できた。
- ・内容はよく理解ができたが、実際にどう動くか難しい面がある。
- ・グループワークの質問内容が難しかった。
- ・わかりやすい話と実例をもとに話されて私でも理解できた。
- ・女性の役割が分からないこと、またリーダーがいないこと、地域の人たちで男性・女性の仕事がどんなものか話し合うことが大事
- ・どうしますか?というところでグループごと話し合ったことでよく勉強になった。

- ・避難したときに女性で伝えたいことができないとき、どう対応するか等、物資がもらえなかったとき等の説明が理解できた。
- ・実例やワークショップもあり、自分たちにひきつけて考えることができた。
- ・地域に帰り、立ち上げたいと考えているので、具体的な方向性が見えた。
- ・自分が運営する側になったら、どうすればよいか分かった。
- ・避難所運営、防災組織づくりのポイントがわかりやすく、参加してよかった。
- ・ワークショップで具体的な問題が出ていて、色々な意見がきけてよかった。

### 3. 受講して気づきや新たに学んだ点

- ・アレルギーへの対応を考えたいと思った。当事者の力を有効に活用したいと思う。
- ・あらゆる場面に対してシミュレーションをやる必要があると思った。女性の視点が大変重要。
- ・有事の際に女性がリーダーとなるためには、日頃から地域のリーダーとして活動している必要がある
- ・災害のときの性別・立場による困難の違いがあることを、新たに学んだ。
- ・支援が必要な人との問題に本人を抜きにして対応を決めないというお話が参考になった。
- ・自助、共助が大切。
- ・避難にはパーソナリティ空間の確保及びそれに伴う広い場所が最低限必要であると気づいた。また個人の特性による緊急時に対応できる体制も整備した方がいいと思った。
- ・役割分担は男女両方でということがよく分かった。担い手として女性が主にリーダーシップになった方が良いということに気がついた。
- ・各資料をよく吟味して今後活用していきたい。
- ・防災に関する意識が高まり知識を学んだ。まずは落ち着いて行動する。
- ・自分が住む地域に防災計画があるのか、組織があるのかをまず確かめる。
- ・女性目線で捉えることの必要性と、意見を提案していく勇氣。
- ・個人への備蓄の大切さ。水は備蓄しているが、食料については不十分であった。
- ・車中泊は物資の対象としてほしい。
- ・防災対策に男女双方の視点が必要な理由を学び、地域で発信していくことが大事。地域で女性が声を出すことは勇氣がいるが、災害対策は自分の身を守るために必要なこと。そのために勇氣を出したい。

### 4. 防災に活かせること

- ・施設での防災、災害に対しての考え方にとっても参考になるものだった。ありがとうございました。
- ・学校・PTA・自治会を中心とした地域での連携、取組みを早い段階で嘉麻市でも行うことが重要。
- ・まずは自宅で出来ることからやっていきたい。(備え)
- ・避難所での性別役割をしっかりと決めること。
- ・もしもに備えて「非常持出し品」を準備する。
- ・災害時、自販機を設置する。
- ・防災マップを作れたらと思う。
- ・若い子どもを育てる女性のための防災講座をやってみたいと思った。
- ・避難所指定の所にて事前に受付票を作成し、準備しておき、避難してきた方に記入してもらう。
- ・地区の区内でいつも活動することが大事ではないかと思った。

## ～かま元気塾レポート～

### 『かま元気塾』が開講しました。

10月28日 「女性による元気な地域づくり応援講座事業」かま元気塾『他人事ではない、いつかくる！自然災害 私の防災準備講座』が開講しました。

今回の取組は、男女共同参画の視点に基づいた防災活動の重要性について学び防災の街づくりを推進すると共に、地域での女性の活動が活性化するようにと計画されました。実行委員会は、かま男女共同参画推進ネットワークに加え行政区長・男女共同参画推進課・防災対策課で構成され事前協議を重ねて、多方面にわたって参加を呼び掛け50名の受講生が参加されています。更に 地元のKTS（かまケーブルテレビステーション）の映像取材も入り、多くの市民にも取組が広がるものと期待されます。

開講式では、舞台のホリゾン幕が開けられ嘉穂アルプスの山々が遠望されるなか、嘉麻市防災対策課の大野課長が市の防災状況を提起されました。講演の前に地元の防災の実情を知ることができて大変参考になり好評でした。

公開講座は池田恵子さん（静岡大学教育学部教授、同大防災総合センター兼任教員 減災と男女共同参画研修推進センター共同代表）から「みんなの力で災害に備える、命を守る」と題したお話でした。災害の影響は男女で異なること従って対策もその視点が重要であることを、避難所運営のポイント・多様化する避難形態・避難生活の問題等について、東日本や熊本の例を示しながら分かり易く話されました。

後半のグループワークでは、災害発生直後を想定して「その時“どうしますか？”」と問われ、グループごとに真剣に且つ積極的に意見交換が行われました。

終了後のアンケートには以下のような意見・感想が寄せられています。（一部のみ）

- ・「女性」であるということを、改めて意識した。共同参画が大切な言葉と思った。
- ・行政と民間が連携しての取組がとても素晴らしいことだと思う。
- ・市内の災害状況が分かり易い説明で良かった。
- ・実例やワークショップもあり、自分たちに引きつけて考えることが出来た。
- ・地域に帰り、自主防災組織を立ち上げたいと考えているので、具体的な方向性が見えた。
- ・有事の際に女性がリーダーとなるためには、日頃から地域のリーダーとして活動している必要がある。
- ・支援が必要な人の問題は、本人を抜きにして対応を決めない！というお話は参考になった。 等

本日 参加された殆どの方が、男女共同参画の視点に基づいた防災の大切さを実感され、自分の足元で具体的に活動をしようと思われた方もあり、今後の取組でその想いがさらに推進されると期待される講座でした。

他人事ではない、いつかくる！自然災害 私の防災準備講座【第2回】

2018年（平成30年）11月24日（土）

夢サイトかほ 文化ホール

13:00～ 前回の振り返り

実行委員長あいさつを兼ね、前回のおさらい

13:10～ 公開講座

60分

「主役はわたしたち

～避難所からのコミュニティ形成～」

講師：NPO法人益城だいすきプロジェクト・きままに代表理事  
熊本県益城町仮設団地自治連合会代表

吉村 静代さん

14:10～ 質疑応答

休憩

14:30～ 塾生限定講座

90分

「子どもを災害から守るために」

講師：ママのための防災会議 in いとしま代表

佐藤 倫子さん  
みちこ

福岡教育大学・西南学院大学・近畿大学 非常勤講師  
(一社) ママトコロボ 理事、(一社) 糸島市ファミリーサポート 理事

東日本大地震をきっかけに糸島市の母親や妊婦などで「ママのための防災会議 in いとしま」を結成。行政の取り組みや知識を深めて「糸島で暮らすママのための防災ハンドブック」をまとめ、発行。

16:00～ 質疑応答

次回講座案内、他、お知らせ アンケート記入

16:30 終了

<メモ>

第2回 平成30年11月24日開催 かま元気塾講座「みんな（男女）の力で災害に備える、命を守る」【参加状況／1部：50名，2部：31名】  
 1部／講師：吉村静代さん（NPO 法人益城だいすぎプロジェクト・きままに代表理事） 2部／講師：佐藤倫子さん（ママのための防災準備会議 in いとしま代表）

【実行委員長あいさつ】



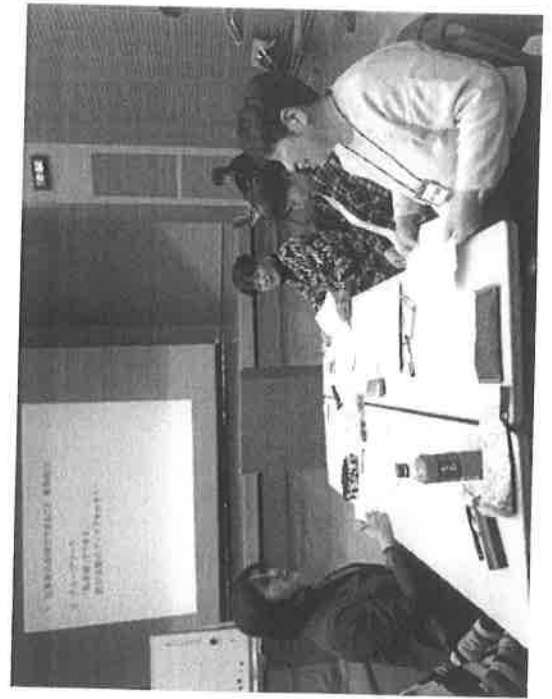
【前回の振り返り】



【公開講座】



【グループワーク】



主役はわたしたち

益城中央小学校避難所

「きままに」のあゆみ

益城だいすきプロジェクト・きままに

PPT 抜粋 2017.0130

講師：吉村 静代

NPO 法人益城だいすきプロジェクト・きままに代表理事  
熊本県益城

# できる人が、出来ることを、出来たしこ

できたしこ：できた分だけ





## かま元気塾

「子どもを災害から守るために～当事者の視点でできることのアイディアを出そう！」

講師：佐藤倫子

ママのための防災会議 in いとしま代表

福岡教育大学/西南学院大学/近畿大学 非常勤講師

(一社) ママトコラボ 理事

(一社) 糸島市ファミリーサポート 理事

〈ねらい〉

- ①当事者の視点を活かした防災活動について事例を知る。
- ②当事者の視点で、受講生がそれぞれ気になることを共有し、防災のためのアイディアを出し合う。
- ③参加者同士で語りあい、防災を意識し、日頃からできそうなことを、自分自身で考える。

〈内容〉

### 1. 子育て中のお母さんが始めた事例紹介「ママのための防災会議 IN いとしま」

#### ①発足

2011年9月 この年の東日本大震災を機に。

糸島市議会議員さんから相談

「糸島市の防災行政に、女性が1人も関わっていない。どうしたらいい？」

#### ②メンバー

- ・子どもが側にいる人（未就園児がいる、フルタイムで仕事をしていない人）
- ・糸島の様々な地域から（海、山、川、新興住宅地、過疎化）
- ・糸島生まれ糸島育ち&移住者
- ・公の利益を考えることができる人

#### ③活動内容

- 1) 学ぶ
- 2) 市政に届ける
- 3) 情報交換をする

#### ④なぜ続けるのか

- 1) 災害は、忘れた頃にやってくる。月1回でも考える時間をとりたい。
- 2) 知的雑談の場所
- 3) 自助の強化
- 4) リーダーシップを発揮する場所
- 5) 各地域へ還元をする

### 2. グループワーク「私の目線で、できそうなことアイディア出し！」

### 3. まとめ、ふりかえり

【平成30年度「女性による元気な地域づくり応援講座事業」かま元気塾アンケート集計結果】  
 (開催日/平成30年11月24日)

参加者数 (50名)      アンケート数 (26)      回収率 (52%)

■年代	20代 (1)	50代 (4)	無回答 (2)
	30代 (3)	60代 (4)	
	40代 (5)	70代 (7)	

■性別	女性 (15)	男性 (6)	無回答 (5)
-----	---------	--------	---------

■市内 (16)	市外 (6)	無回答 (4)
----------	--------	---------

■講座の案内をどこで知ったか。				
広報嘉麻 (1)	チラシ (4)	友人等から (7)	主催者から (11)	その他 (2)

1 公開講座について

① 講座の内容について

■よくわかった (26)      ■あまりよくわからなかった (0)      ■難しかった (0)

※上記を選んだ理由

- ・避難する位置 (例えば障がい者の方、小さい子どもさん連れ、高齢者の方の居場所を決めたり、トイレの問題)
- ・具体的だったのでとても参考になった。・体験者のお話だったので、すごくわかりやすかった。
- ・日頃からの地域の活動が災害時の協力につながり、その一つひとつの取組みが良く理解できた。
- ・行政の代替機能を一部でも住民が行えたら、より良い避難所になると分かったから。
- ・避難所の仕組みなどよくわかった。      ・皆さんが協力してやる気を起こすことが大事。
- ・自主運営への流れから、閉所まで吉村先生がどのように動かされたのか、また住民として行政にどのように働きかけを試みたかよくわかった。聞き取りやすかった。
- ・避難所になった時に、まずやらなければならないことがわかった。
- ・前回の振り返りもプロジェクターのみの理解で、マイクでは聞き取りづらかった。
- ・具体的な運営、避難所の問題点、取組みがきけて良かった。

② 感想、または心に残った言葉

- ・感染症が出た場合の対応の仕方。行政に頼っても手がまわらない。それぞれの分野で…。
- ・声をかけ合うこと。      ・現場の苦労がよくわかった。
- ・4ヶ月避難生活が仮設住宅に移ったときに活かされた。
- ・行政はもっと柔軟に対応すべきだと思う。自分ができることをみんながしていくとすごい力になる
- ・いつ自分が地震や災害にあうかわからない。助け合うことが大切であるとまた考えさせられた。
- ・感染症対策も大事だと思った。役割分担をしない考えには目から鱗が落ちるようだった。
- ・できる人ができること、できたしこ。人とのつながりの大切さ。
- ・まず避難所でみんなと仲良くなること、そして仮設住宅に行ったときに周りが顔見知りだといいいということ。
- ・自主運営、自分達で。・避難所と仮設は違う。仮設は自立の第1歩。
- ・小学校一年生の子が、“出かけるときは行ってきます” “帰ってきたらたないま” と自分で書いて貼ってあったことがとても心に残った。
- ・実は飯塚市で1度、話をきいていたのですが、2度くらいきいても良いなあ。忘れちゃいけない。
- ・行政と仲良くしないといけないと思った。
- ・最後のまとめはプリントでほしかった。

## ② 塾生限定講座について

### ③ 講座の内容について

■よくわかった (16)      ■あまりよくわからなかった (0)      ■難しかった (0)

#### ※上記を選んだ理由

- 自分のためでもありいつ被害に合うかわからないので、色々な防災グッズと準備とは思っているがまだ無関心
- グループワークでわかりやすかった。
- 学校に引き渡し訓練をしたら、良いことがわかった。
- まず自分で考えてみることを話していただくことがわかりやすかった。
- いろいろな意見をきけて、皆さんのパワーがすごいなと思った。

### ④ 感想、または心に残った言葉

- 防災マップを作る必要があると思った。
- グループで話し合うのが楽しかった。      • 初めに自己紹介したのが良かったと思う。
- 知的雑談の場      • 月1回ですと話し合いを続けていること。
- 小さな子どもを連れての避難は大変だと思った。お手伝いします。
- 一人で考えてモヤモヤしていたことを、話せてスッキリ。

## ③ 今回、受講して気づきや新たに学んだ点

- 自分で何ができるか。      • 家族で話し合うこと。
- 仮設住宅でも地域のつながりが大事である点。      • 区や組を脱退した方の避難確認について。
- 人が多ければ多いほど気づく点も多い。      • 日頃から近隣とのコミュニケーションの必要性。
- 子どもと非常食をつくりたいと思った。      • 子育て家庭、妊婦の方の人たちへの対応の仕方。
- 被災した時の心構えをよく考えてみる必要を痛感した。
- 子どもを心配するママの視点を集約できると、市が気づかない防災が考えられると思う。
- 子どもが大きくなり、改めて振り返って子どもを守る点について考えさせられた。

## ④ 地域で防災に活かしたい、取り組みたいと思っていること

- 地域で支えていき、災害は忘れたころにやってくるので知的雑談の場所で話し合うことが大事。
- あいさつ。家族防災会議。
- 防災研修をPTA活動や子ども会でやりたい。
- 情報収集のため、周りをめぐって調べて対応。役に立ちたい。
- まず家族で考えてみたい。
- 防災力を向上したい。施設でも生かしたい。
- 自分の活動しているグループで話をするだけでも良いのかなと思った。
  
- 要望：授業参観後やPTA親子活動の際に引き渡し訓練をしてほしい。(学校)
- 避難所に行政の女性職員一人以上の配置を要望する。

## ～かま元気塾レポート～

### かま元気塾第2回目（公開講座・塾生限定講座）開催

11月24日「かま元気塾」私の防災準備講座第2回目を夢サイトかほで開催しました。今回の講座は2部制。1部の公開講座は、熊本震災の被災者である熊本県益城町仮設団地自治連合会代表の吉村静代さんの「主役はわたしたち ～避難所からのコミュニティ形成～」では、避難所運営は行政に頼らず、自分たちで避難所を運営していくことを避難者で話し合っ決めていったというお話でした。日頃の地域活動の積み重ねやネットワークがあったからこそと感じた内容でした。「避難所では役割分担せずに、得意分野を持つ人、出来る人が出来ることを出来たしこ」で運営された話は説得力にあふれていました。

また、2部の元気塾生限定講座では、糸島市在住で「ママのための防災ハンドブック」を作成された佐藤倫子さんが「子どもを災害から守るために」当事者＝私の視点でできそうなことをグループでアイデアを出し合いました。佐藤さんのご自身の活動から、「災害は忘れた頃にやってくるので月に1回でも時間をつくり、防災意識を高めるために自助の強化を図って、地域へ還元する」というお話しは、自分たちにも出来るのではと防災を身近に感じる講座でした。

他人事ではない、いつかくる！自然災害 私の防災準備講座【第3回】

2018年（平成30年）12月8日（土）  
夢サイトかほ 文化ホール

13:00～ 前回の振り返り

実行委員長あいさつを兼ね、前回のおさらい

13:05～ 公開講座

75分

「被災地、被災者として」

講師：福岡県男女共同参画審議会委員、元杷木町長

中嶋 玲子さん

14:20～ 質疑応答

休憩

14:30～ 塾生限定講座

110分

「HUG体験（避難所図上訓練）」

講師：NPO 法人福岡ジェンダー研究所理事

倉富 史枝さん

次回講座案内、他、お知らせ アンケート記入

<メモ>

16:30 終了

第3回 平成30年12月8日 開催 かま元気塾講座「みんな（男女）の力で災害に備える、命を守る」（参加状況／受講生）  
 1部／講師：中嶋 玲子さん（福岡県男女共同参画審議会委員、あすばる元館長、元杷木町長）  
 2部／講師：倉富 史枝さん（NPO法人福岡ジェンダー研究所 理事）

【実行委員長あいさつ】



【前回の振り返り】



【公開講座】



【グループワーク】



# 「被災地、被災者として」

講師：中嶋 玲子

福岡県男女共同参画審議会委員

元杷木町長

## ● 基本的な考え方

### 1、平常時から男女共同参画の推進が

#### 防災・復興の基盤となる

地域の防災力向上を図り、復興を進めていくためには、男女共同参画の視点を取り入れた防災・復興体制を確立する必要がある

- ① 地域での意思決定の場での女性の参画が少なく、女性の意見が反映されない
- ② 男女のニーズの違いや子育て家庭等のニーズが十分配慮されにくい
- ③ 女性や子供に対する暴力が、災害時には避難所や仮設住宅で顕著化する懸念される



- ④ 平常時における固定的な性別役割分担意識を反映して、災害時にも家事、子育て、介護等の負担が女性に集中する。一方で、家族を経済的に支え、守るのは自分の役割であるとの意識が強い男性は、その責任を抱え込み追い詰められやすい
- ⑤ 女性はパート・アルバイト等の非正規雇用が多いため、災害後に解雇・雇止めされやすい。以上は男女共同参画の課題が災害時に表出した。

## 2、「主要な担い手」として女性を位置付ける

女性が果たす役割は大きいことを認識し、意思決定の場への参画や、リーダーが必要

## 3、災害から受ける影響の男女の違い

女性の負担の増大、女性に対する暴力の発生  
男性のひきこもりや孤立、飲酒量の増加

(災害は自然災害であるという自然要因と、社会のあり方による社会要因)

## 4、男女の人権を尊重して安全・安心を確保する

- ・避難所に、間仕切り用パーテーションや更衣室がない
- ・人権や安全・安心の確保

※平常時からの、地域防災計画や、避難所運営マニュアル等の政策過程への参画、自主防災組織の創設と女性リーダーの参画とリーダーの育成

【平成30年度「女性による元気な地域づくり応援講座事業」かま元気塾アンケート集計結果】

(開催日/平成30年12月8日)

参加者数(44名)

アンケート数(20) 回収率(46%)

■年代	20代 (2)	50代 (4)	無回答 (3)
	30代 (3)	60代 (2)	
	40代 (5)	70代 (1)	
■性別	女性 (15)	男性 (2)	無回答 (3)
■市内	(11)	市外 (7)	無回答 (2)
■講座の案内をどこで知ったか。			
	広報嘉麻 (2)	チラシ (3)	友人等から (6) 主催者から (4) その他 (2)

1 公開講座について

① 講座の内容について

■よくわかった(19) ■あまりよくわからなかった(0) ■難しかった(0) ■無回答(1)

※上記を選んだ理由

- ・中嶋玲子さんの熱意ある話がききたかったから。 ・大きな声ですごくわかりやすかった。
- ・今回の災害が大きく、生活が一変した方が多いと分かったから。
- ・実際の被災された方のお話しはとても心に残る。動画や画像で説明していただくと、あの日の凄まじい状況がよくわかった。
- ・テレビなどで得る情報とは違い、実際に被災された中嶋さんの話はとても心に入ってきた。この話を今後活かしたいと思う。
- ・自身が被災してあり、事実を述べられていたので、よくわかった。
- ・自分の身は自分で守り地域のために頑張り、声かけをして高齢者・子どもさんたちに守っていく。
- ・いつも明日は我が身と思ってはいるものの、改めて経験された方のお話しは身に沁みました。
- ・朝倉の被害が物だけではなく、人間関係にまで及ぶことがわかったから。
- ・被災の様子を動画で実際に見ることで、非常にわかりやすく感じた。
- ・全てが心に響いた。災害についてしっかりと考えていかなければならないと思った。
- ・当事者だから、話していただけることがあったと思った。貴重なお話しだった。家族に伝えたいけど、伝わるかなあと思った。

② 感想、または心に残った言葉

- ・実体験をふまえての話にとっても感動的で涙ながらにきかせていただいた。相変わらぬ力強いお話を、残った言葉・同調圧力をありがとうございました。
- ・私で良ければ頑張ります。「なの話」「みんなの顔を」「早く逃げる、自分の命・家族を守る」
- ・今後、一人暮らしの方、認知症の方が増えていくと想定される中での避難体制整備が大変と思った。
- ・「災害が地域までなくしてしまう」「みんなで守る大切さ」「私でよければがんばります」  
たくさんの市民の方に、中嶋さんのお話をきいてもらいたい。
- ・同じ地域、隣近所でも少しずれるだけで、被災状況が違う。気持ちがバラバラになる。
- ・地域もなくなる。実感。 ・“民は民で

- ・物事を決定する場には女性が必ず入ってなければならない。「私でよければ頑張ります」の言葉。
- ・災害は地域まで壊してしまうという言葉が印象的だった。嘉麻市でも高齢者の一人暮らしや、高齢者や障がいがある方がいらっしゃる世帯が多くあると思われるため、避難を早めにする。地域での手助けの大切さも感じた。
- ・私でよければがんばります。と言えるようになりたい。
- ・一人暮らしの高齢者が早めに逃げないといけないのは知っていたが、色々な家族がいる中で「早くてもいい、空振りでもいいから逃げて」というのが心に残った。
- ・地域の人と仲良くしたくないけど、少しは頑張らないといけないかなあと思った。

## 2 塾生限定講座について

### 3 講座の内容について

■よくわかった(11) ■あまりよくわからなかった(0) ■難しかった(0) ■無回答(9)

※上記を選んだ理由

- ・ハグは2回目ですが前よりゆとりがありできた。・シミュレーションができたから、よくわかった。
- ・シミュレーションが楽しかったけど、頭が疲れた。・HUGは初めてで、疲れたが役に立った。
- ・グループの中からも色々教えていただいたので、よくわかった。
- ・初めての取組みだった。決断力が必要だと思った。みんなで協力が必要である。

### 4 感想、または心に残った言葉

- ・早急に防災組織を立ち上げたい。・忙しい!・管理職研修でHUGをしてほしい。
- ・いろいろ考えて楽しかった。
- ・みんなで相談しながら、HUGゲームを進めていったので、とても為になった。自分の知らない知識を学べた。

## 3 今回、受講して気づきや新たに学んだ点

- ・防災の意識の大切さ、高齢者の話。
- ・震災前(10日前)に熊本城を訪れ、豪雨1ヶ月前に甘木を訪れていた。いつどこで被災するかわからない時代、改めて防災、減災を自分たちで少しでもできるように考えていきたい。
- ・トイレは一番に設置してほしいと思った。
- ・LGBTやホームレスの方、住登外の方の対応、受付の段階で協力をお願いをする。
- ・精神疾患をお持ちの方や疾病の方をどうやって配慮するか事前に確認しておいた方がいいと思った。
- ・情報や人々の希望など刻一刻と変化し多量にあるので、実際対応する能力を身につけるのは大変だ。
- ・実際に避難所を運営している気分を味わった。あらかじめ体験する必要が大切。(机上ではなく)
- ・パワーポイントを有効に使うため、ポインターを使用してほしい。手話の方が見えないので明るいところでもらった方がいいと思う。

## 4 地域で防災に活かしたい、取り組みたいと思っていること

- ・できる人ができるだけ、できるしこ。災害の発生時間。
- ・若男女が誰しも手を取り合い、命を守る行動を早めに。・声(小さな声)をくみとる。
- ・防災士資格取得。
- ・職員研修でHUGをしてみんなでシミュレーションを共有することが、もし避難所になった時に役に立つと思った。
- ・まずは家庭から。それから地域へと考えていきたい。・HUGゲームを、自治会でもやりたい。

## ～かま元気塾レポート～

かま元気塾3回目（公開講座・塾生限定講座）開催

12月8日「かま元気塾」私の防災講座3回目が、夢サイトかほで開催されました。

今回の講座は一部公開講座（福岡県男女共同参画審議会委員 元杷木町長の中嶋玲子さん）のお話して「被災地、被災者として」ご自身も被災者であるためか、大変熱のこもったお話で被害は物だけではなく、人間関係にも及び事や地域までも壊してしまうこと。避難のタイミングが分からず命を落とした方、伝達方法の不備で生死を分けるなど、自然災害の恐ろしさ、一山違っていたら、嘉麻市でも起こり得たことを痛切に感じました。避難所設営でのお話では、女性がメンバーに入っていなかったことによるパーティションの未設置、男女のトイレの位置、更衣室や授乳室、洗濯物干し場等たくさんの問題があり女性の力が必要なこと、最後に「私でよければ頑張ります」と言ってくださいと言われ、私もそう言えるようになりたいと思いました。

2部は、塾生限定の講座「HUG 体験避難所図上訓練」講師は、NPO 法人福岡ジェンダー研究所理事 倉富史枝さん。図上とはいえ、突然の避難所設営次々に読み上げられるカード、障害を持たれた方、妊婦の方、外国の方、高齢者の方、旅行者の方など考えも及ばない方々を受け入れ、瞬時に判断し、適切な場所に案内し落ち着いていただく。車中泊の方の駐車位置、物資の受け入れ保管場所、更衣室・仮設トイレの位置、洗濯物干し場など女性の主体的な参画が避難所設営にいかにか大切かを考えさせられました。

他人事ではない、いつかくる！自然災害 私の防災準備講座【第4回】

2019年(平成31年)1月19日(土)

夢サイトかほ 文化ホール

13:00 ~ 前回の振り返り

実行委員長あいさつを兼ね、前回のおさらい

25分程度

13:05 ~ 「私の防災講座」嘉麻市防災対策課編

大野 明治 嘉麻市防災対策課長

10分程度

13:30 ~ 朝倉現地視察レポート

かま元気塾生 野見山 桂子さん

休憩 10分程度

途中休憩含む 150分

13:50~

「フォローアップ講座」

講師：NPO 法人福岡ジェンダー研究所理事 倉富 史枝さん

休憩 10分程度

16:40~ かま元気塾 修了式

福岡県消防学校現地ツアー（視察研修）案内、他お知らせ、アンケート記入

<メモ>

第4回 平成31年1月19日 開催 かま元気塾講座「他人事ではない、いつかくる！自然災害 私の防災準備講座」(参加状況/受講生 36名)

【「私の防災準備講座」嘉麻市防災対策課編】 講師：嘉麻市防災対策課長 大野 明治

【朝倉現地視察レポート】 かま元気塾生 野見山 桂子さん

【フォロワーアップ講座】 講師：倉富 史枝さん(NPO法人福岡ジェンダー研究所理事)

【かま元気塾 修了式】

【実行委員長あいさつ】



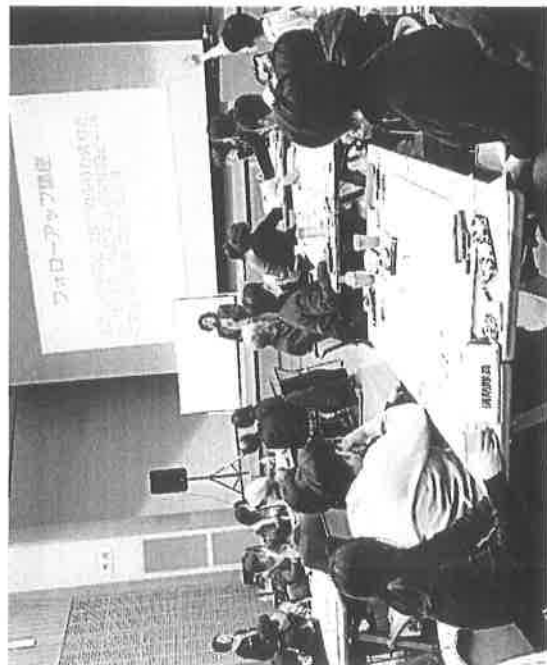
【私の防災準備講座】



【朝倉現地視察レポート】



【グループワーク】



【修了証書授与】



私の<sup>ひとごと</sup>！他人事ではない、  
いつかくる！自然災害。  
防災準備講座

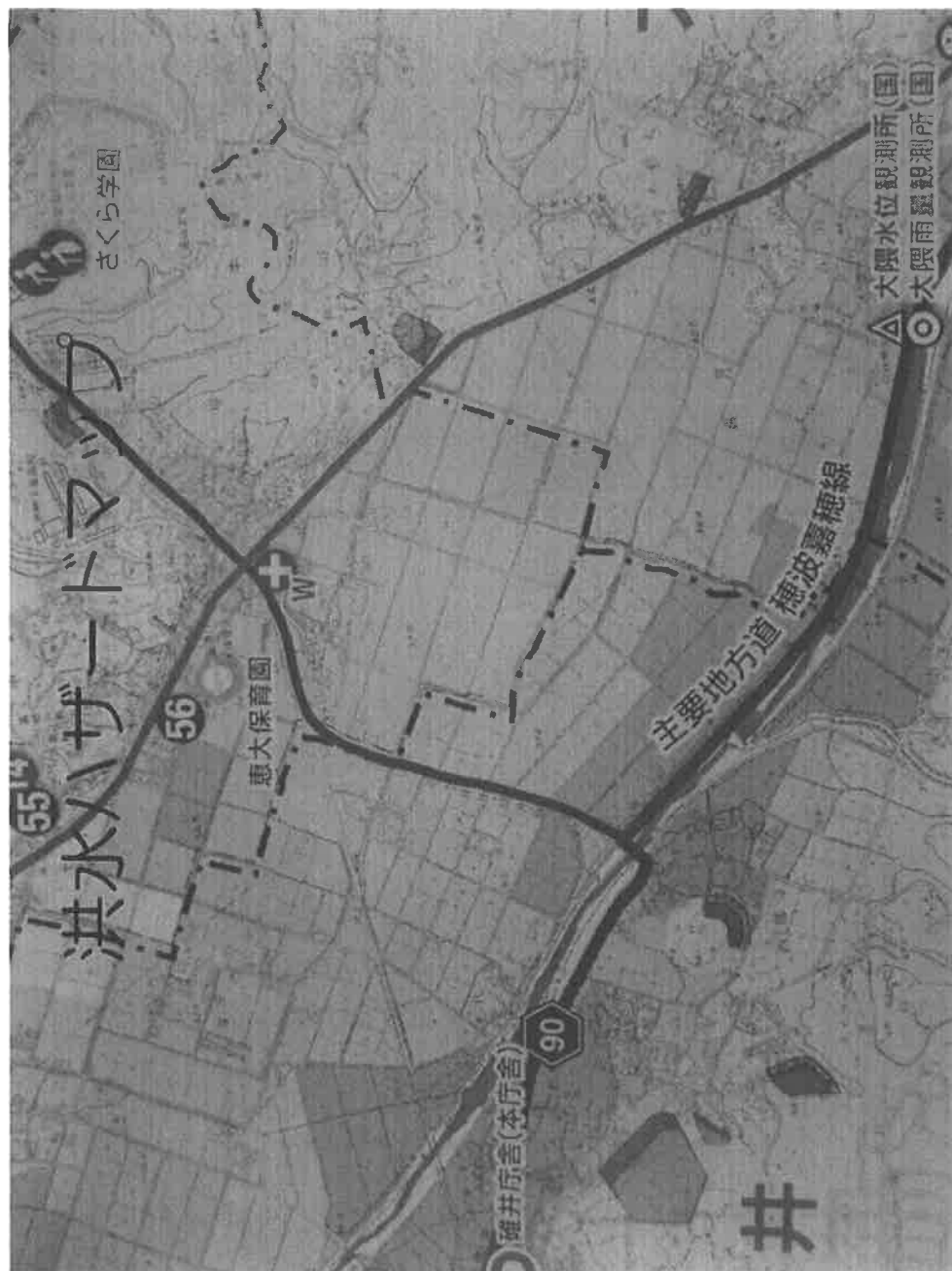
(防災対策課編)



# 災害から自分の命を守ろう！

1. 雨を知ろう
2. 危険を知ろう
3. 情報を知ろう
4. 避難の方法を知ろう
5. 備えよう
6. 地域の力を育てよう

## 2. 危険を知ろう!



# 各種情報サイト

[いざという時のための情報]

気象警報・注意報（気象庁）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/warning.html>

記録的短時間大雨情報（気象庁）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kirokuame.html>

土砂災害警戒情報・土砂災害警戒判定メッシュ情報（気象庁）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/doshakeikai.html>

川の防災情報（国土交通省）

<https://www.river.go.jp/kawabou/ipTopGaikyo.do>

洪水警報の危険度分布（気象庁）

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/riskmap\\_flood.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/riskmap_flood.html)

防災メールまもるくん（福岡県）

<https://www.bousai.pref.fukuoka.jp/mamorukun/service.html>

[事前の準備のための情報]

国土交通省ハザードマップポータルサイト（国土交通省）

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

土砂災害防止法（国土交通省）

<http://www.mlit.go.jp/river/sabo/linksinpou.htm>

指定避難所

- 災害の危険から命を守るために緊急的に避難する場所
- 土砂災害・洪水等のハザード別に異なることに注意
- 指定避難所に限らず、ハザードによる人的被害の恐れがない場所（親戚、友人宅等）であれば、避難者自らの判断でその場所に避難することも可

近隣の安全な場所

- 自らの判断で「近隣の安全な建物」（民間のマンション等）に緊急的に退避することもあり得る
- そのため平常時から適切な退避場所を確認しておくことが必要

屋内安全確保

- 自宅内の上層階で山からできるだけ離れた部屋等に移動

## 6. 地域の力を育てよう！

### 「公助の限界」と自助・共助の促進・啓発

#### 「公助の限界」と自助・共助の促進・啓発

東日本大震災等の大規模広域災害の発生時には、行政が全ての被災者を迅速に支援することが難しいこと、行政自身が被災して機能が麻痺するような場合があることが明確となった。「公助の限界」

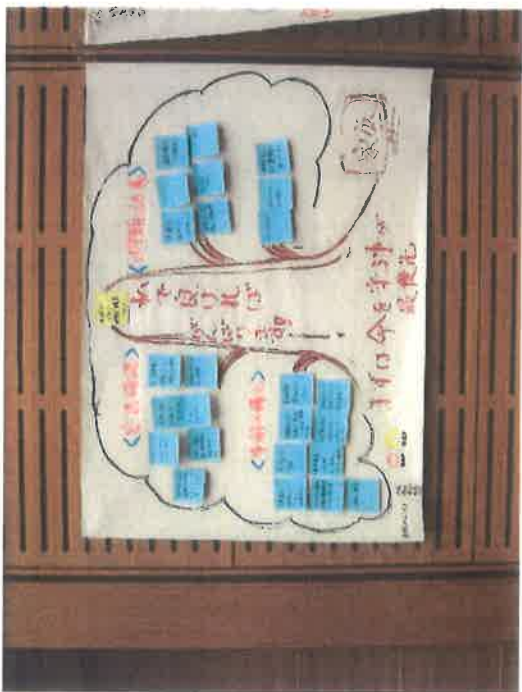


発災後、しばらくの間は、行政の支援を受けることなく、地域住民が自発的に避難行動を行ったり、地域コミュニティで助け合って、救助活動、避難誘導、避難所運営等を行うことが重要になってきます。

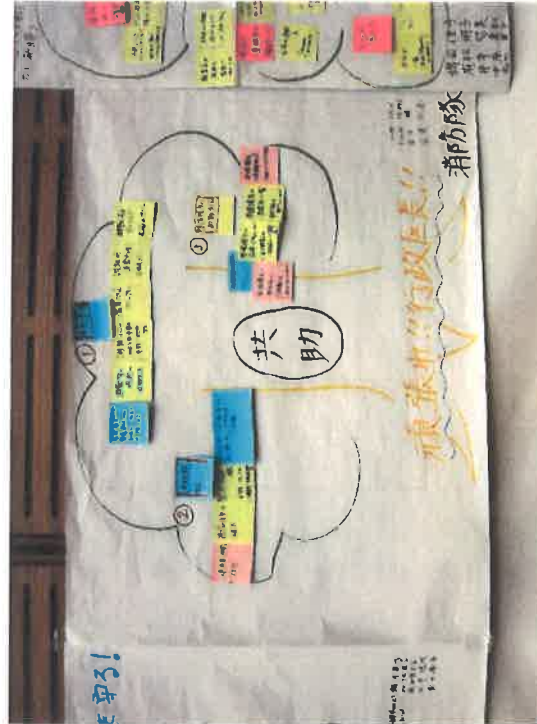
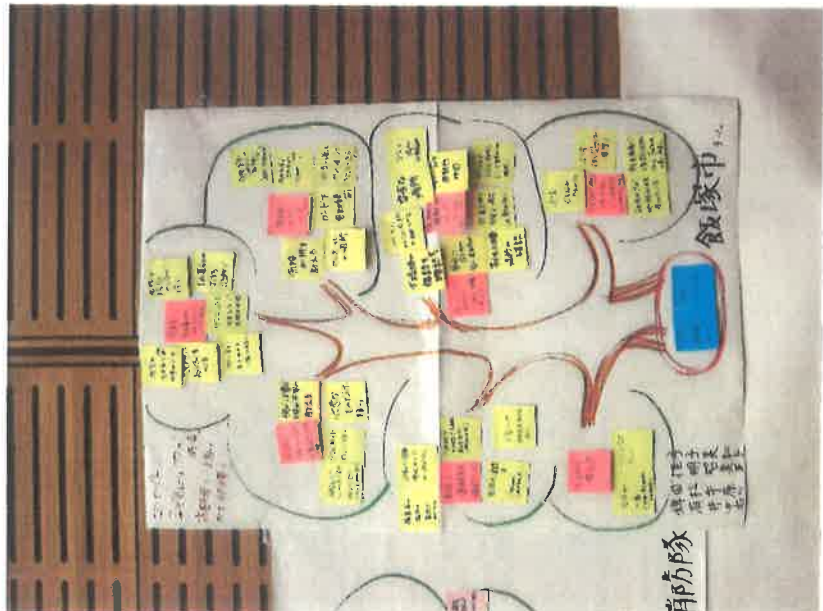
## **かま元気塾卒塾生として実行します！**

- 1 何を（内容）
- 2 誰に対して（対象者）
- 3 どこで（場所・範囲）
- 4 いつまでに（期限）

【NPO 法人福岡ジェンダー研究所理事 倉富 史枝さん 資料】



それぞれのグループで話し合って  
意見を出し合いました!



《自分ができるこれから取り組みについて、塾生のみなさんひとりが宣言シートに記入をし発表しました》





【平成30年度「女性による元気な地域づくり応援講座事業」かま元気塾アンケート集計結果】

(開催日/平成31年1月19日)

参加者数(36名)

アンケート数(16) 回収率(44%)

■年代	20代(1)	50代(3)	無回答(2)
	30代(0)	60代(0)	
	40代(6)	70代(4)	
■性別	女性(12)	男性(2)	無回答(2)
■市内(9)	市外(4)	無回答(3)	

1 防災対策課編講座について

① 講座の内容について

■よくわかった(14) ■あまりよくわからなかった(1) ■難しかった(1)

※上記を選んだ理由

- ・自発的な行動の具体例があって想像がしやすかった。
- ・よくわかった内容だった。
- ・防災知識が乏しいので、得るものは多かった。
- ・早めの備えが大切だと思った。
- ・6つのテーマにしぼってあり、分かりやすかった。
- ・言葉がはっきりしていて、分かりやすかった。
- ・GWで自分の意見を述べたり、他の方の話をきくことで理解が深まったように思った。
- ・何を言わんとするのか、わからなかった。
- ・難しかったが、班の人の協力で楽しかった。
- ・防災意識が高まった。自分の命は自分で守り、高齢者と地域の方の命を守っていく。

② 感想、または心に残った言葉。

- ・助かった人の8割が救助ではなく、自発的に行動された方だということ。
- ・「行政は万能ではありません」分かっていることなので、事前に自分で備えておきたいと思った。
- ・“私でよければ喜んで”
- ・私でよければ、がんばります。大事なことだと思った。なかなかできないが…
- ・まずは自分を守る。
- ・自分以外の意見がきけて為になった。

## 2 フォローアップ講座について

### ① 積極的に意見交換ができましたか

■できた(13) ■あまりできなかった(1) ■できなかった(1) ■無回答(1)

※上記を選んだ理由

- ・立場の違ういろいろな方の話を聴き、また子育て世帯がどのように避難するかを言えた。
- ・各々の課題に対して、テーマ設定し解決策を考えることができたから。
- ・全員が意見を出せて共有できた。
- ・班の雰囲気もよく話しやすかった。
- ・たくさんの知り合いの方ができた。仲間が増えた。
- ・メモ用紙に記載したこと。
- ・発信しやすい、グループであった。
- ・皆の前で話せなかった。

### ② グループワークをやってみて思ったこと又は感想。

- ・数人で防災のことをじっくり考える時間がとれば、アイデアはたくさん出てくる。
- ・他の人の意見は「なるほど」と思うことが多く、またそれに意見されたりとよい時間、勉強になる時間でした。
- ・意見交換ができ有意義だった。
- ・自分にはない悩みを知り、子どもの力を生かせることができそうな案がたくさん出て「やってみよう」と思った。
- ・5人なので話しやすい。聞こえやすい。
- ・色々な意見がきけてよかった。
- ・近い、地域の方々の意見を聞けた。
- ・皆さんとても良い意見を持ってあるなと感心した。
- ・違う意見が出るところが面白い。
- ・参考にできることが、いろいろあった。
- ・楽しかった。
- ・他人の考え方がよく分かってよかった。

### ③ 宣言を実行に移すためには何が必要と思いますか。

- ・今の気持ちを忘れないこと。
- ・いつどこで災害が起こっても、慌てず対応できるように日頃から防災の意識も持ちたい。
- ・みんなに言うこと。
- ・強い思い。強い気持ち。
- ・まずはやる気。
- ・もっと勉強して伝えていくこと。
- ・災害に対する恐怖を忘れないこと。自分のことだと思ふこと。
- ・日頃のコミュニケーションづくりだと思ふ。
- ・まず話し合いをすること。
- ・地域の方と行政区長さん話し合いマップ作り、名簿を作る。

- ③ 最終回の講座を受講して、気づきや新たに学んだ点。
- あきらめないこと「私では引き受けません」
  - 共助、自助の力は大きい。
  - 自主防災組織についての知識不足、また提言することによる責任。
  - 福岡県作成の「家庭で作る防災マップ」のことが知ることができた。
  - 何気ないことでも非常時には命を守る大切なことかも。いろいろな方と話すことで災害に備えたい。
  - マニュアルづくりは大変だと思っていたけど、思ったことや気づいたことを書くことから始めることが大事だと思った。
  - また、講座などあれば参加したいと思う。
  - 皆で一緒の方向に進んでいくことは安心だけど、色々な意見を大切にしたい。
  - グループ作業の結果。
- ④ かま元気塾に参加して、防災、地域、男女共同参画に関する意識の変化があればご記入ください。
- 改めて男女共同参画の重要性を感じました。もっと地域や自分の周りに意識づけしていきたい。
  - 防災に関する知識が深まった。
  - 防災について具体的に知ることができてよかった。
  - 体験した方や学んでいる方など（講師の方）から聴かないと分からないことが沢山あると気づいた。小さなお子様を持つママや高齢者・障がい者のことを考えた避難所運営（準備）を実行したい。
  - また講座などあれば参加したいと思った。
  - 地域のことをもっと知る必要がある。
  - 他人事と思うのではなく、自分のことだと思うようになった。男の人に頼るつもりはないけれど、一緒に頑張りましょう。
  - 避難所運営には男女共同参画が必要。
- ⑤ 一連の講座全体を通しての感想、ご意見をご記入ください。
- 特に最後のワークは地域別に話せてよかった。
  - 毎回楽しみにしていましたので、今日で最後かと思うと寂しい。また皆さんと何処かで会えるのを期待しています。
  - 大変、有意義でした。
  - 平成31年度、引き渡し訓練をやることが決まった。平成30年7月の大雨災害のマップもいただくことができ、学校現場で1つ前進した。このような機会をいただくことができ、ありがとうございました。
  - 「私では引き受けませんが、頑張ります！」を心にとめて頑張ります。
  - 参加できて、本当に良かった。
  - 色々な人たち（地域・年齢）と話ができて楽しかった。
  - 知らないことを知ることができた。知識は「力」だと思った。
  - 良かった。
  - 防災についての気づきができてよかった。

## ～かま元気塾レポート～

1月19日「女性による元気な地域づくり応援講座事業」かま元気塾「他人事ではない、いつかくる！自然災害 私の防災準備講座」の4回目を実施しました。

今回は「私の防災準備講座」と題し、嘉麻市防災対策課課長 大野明治さんより「災害から自分の命を守ろう」についてお話がありました。

雨を知り、危険を知り、情報を知り、避難の方法を知り、備えをする。地域の力を育てることの大切さについてのお話でした。また、「公助の限界」と「自助・共助の促進」が大切であり、地域住民が自発的に避難行動を行ったり、地域コミュニティで助け合うことの重要性についてのお話でした。

「フォローアップ講座」では、講師に福岡ジェンター研究所理事 倉富史枝さんをお迎えし、「マニュアルの構成と目次を考える」と題しお話しされました。

目次を考えるときは、木をイメージし何が「幹」で何が「葉」なのかをイメージすると構成が見えてくると説明を受け、それぞれのグループで話し合い、タイトルをつけ、枝について意見を出し合いました。

グループごとに、熱心に論議し、木を完成させ、発表しました。

防災マニュアルを作成するとき、男女共同参画の視点を入れることの大切さを改めて考えさせられました。

講座終了後に、今回のかま元気塾の修了式が行なわれ、あすばる事務長より今日の学びとネットワークを地域での活動にいかしてほしいと激励されました。

# 朝倉現地視察レポート

2018.12.16 (日) 【ピーポート甘木第3学習室】

## ～交流会～

- かま男女共同参画推進ネットワーク(13名)
- かま元気塾生(4名)
- あさくら元気塾の母体となった「風おこしの会」

①皆が乗車したマイクロバス (山にはなぎ倒された木々)



②あさくら元気塾の母体となった団体「風おこしの会」とかまの団体との交流会



「一人ひとりの力が生かされて地域がつながる」  
若い人たち、次世代への継承が  
どちらの団体も課題

③あさくら災害母子支援センター



④災害母子支援センター副代表の星野洋子さんと  
事務局長の大庭さみ子さん



⑤大庭さみ子事務局長  
(朝倉市議会議員)



今回、「九州北部豪雨災害と  
母子支援」と題して、さみ子  
の設立の経緯についてお話し  
していただきました。

⑥地域の特産物購入＝復興支援



⑦朝倉市ボランティア連絡協議会 副会長 林 清一さん  
きよ かつ



⑧九州北部豪雨時の空模様



⑨ねじれた橋



⑩護岸工事中



⑪参加者とあさくら元気塾の方々との  
集合写真



講座 かま元気塾レポート

かま元気塾開講式 第1回公開講座開催

10月28日「かま元気塾」私の防災準備講座を夢サイトかほで開講しました。この「福岡県女性による元気な地域づくり応援講座事業（通称：元気塾）」は、男女共同参画社会をつくるために、県内8つの実行委員会が地域それぞれの課題をとらえ、課題解決に向けて行動し、新しい地域の担い手の発掘、育成に取り組んでいるものです。嘉麻市では、他人事（ひとごと）ではない、いつか来る！自然災害に備えて、私にできる、私たちにできる防災準備をテーマに塾生を募集して開講式に臨みました。

来賓挨拶の後、嘉麻市防災対策課長による「嘉麻市防災情報」のミニ講義を受け、静岡大学教授で減災と男女共同参画研修推進センター共同代表の池田 恵子さんが「みんなの力で災害に備える、命を守る」と題して講演。講座の後半で、様々な避難所の場面を想定し「自分ならどうするのか」の問いにグループワークを行い、いろいろな意見が出て活発な話し合いとなりました。



次回開催／12月8日（土）

- 1部 公開講座「被災地、被災者として」  
元杷木町長 中嶋玲子さん
- 2部 塾生限定 避難所運営の模擬体験講座  
福岡ジェンダー研究所 倉富史枝さん

事前  
申込制

参加無料 手話通訳有 託児要予約

●申込・問／嘉麻市男女共同参画推進課 ☎53-1120

かま元気塾レポート



かま元気塾第2回目（公開講座・塾生限定講座）開催

11月24日「かま元気塾」私の防災準備講座 第2回目を夢サイトかほで開催しました。熊本地震の被災者である、熊本県益城町仮設団地自治連合会代表の吉村静代さんからは、行政に頼らず自分達で避難所運営を行うと決断した際のお話しが聞けました。2部の元気塾生限定講座では、糸島市在住で「ママのための防災ハンドブック」を作成した佐藤倫子さんが「子どもを災害から守るために」をテーマにグループでアイデアを出し合いました。「災害は忘れた頃にやってくるので月に1回でも時間をつくり、防災意識を高め、地域へ還元する」というお話は、自分たちにも出来るのではと防災を身近に感じる講座でした。

次回開催／1月19日（土）

※塾生限定の講座となります。

防災対策課講義・フォローアップ講座（グループワーク）

●申込・問／男女共同参画推進課 ☎53-1120

託児要予約

参加無料

かま元気塾レポート



かま元気塾第3回目（公開講座・塾生限定講座）開催

12月8日「かま元気塾」私の防災準備講座第3回目を夢サイトかほで開催しました。

1部の公開講座、昨年の朝倉水害の被災者である福岡県男女共同参画審議会委員、元杷木町長の中嶋玲子さんの「被災地、被災者として」のお話しは、ご自身の被災体験を通して、被害は物だけでなく、人間関係、地域までも壊してしまうこと、一山違っていたら嘉麻市でも起り得たことを実感できました。

また、2部の元気塾生限定講座では、嘉麻市の男女プラン等に関わっている福岡ジェンダー研究所理事の倉富史枝さんの講師で「HUG」＝避難所運営を模擬体験するグループワークでした。女性の主体的な参画が避難所運営にいかに大切かを考えさせられました。

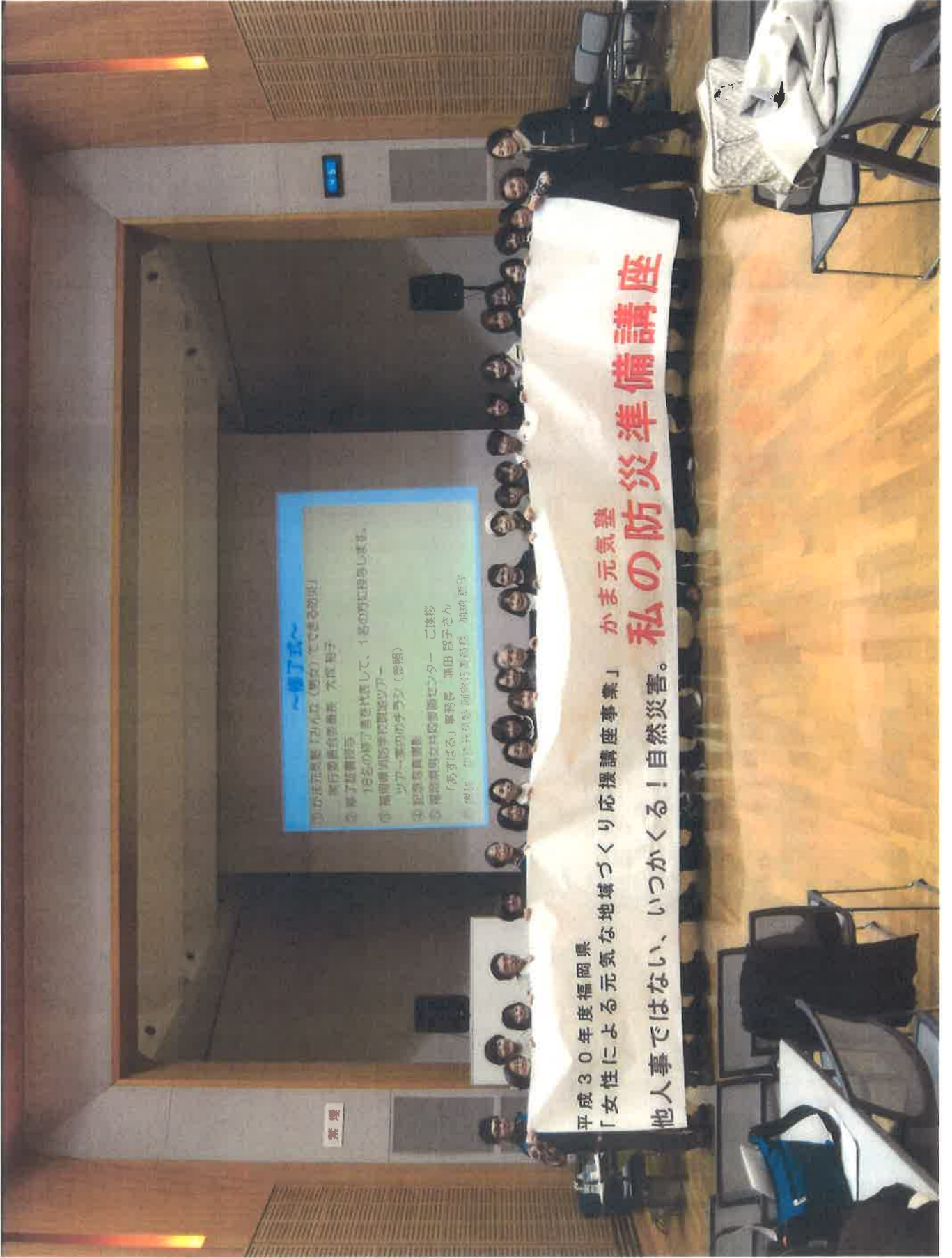
●問／男女共同参画推進課 ☎53-1120

※かま元気塾第4回目（塾生限定講座）のレポートは、  
広報嘉麻3月号に掲載予定



# 福岡県消防学校体験ツアー (H31年2月14日) 参加者 10名





～修了式～  
 10の法元高麗「みんな（聴覚）でできる防災」  
 実行委員長 徳島 大塚 裕子  
 2 修了証書授与  
 18名の修了書授与して、1名の修了証書授与します。  
 3 常務理事 川崎 裕子 代表して、1名の修了証書授与します。  
 4 記者発表  
 5 修了証書授与  
 6 修了証書授与  
 「あまばな」事務局 浦田 啓子 さん  
 7 修了証書授与  
 8 修了証書授与  
 9 修了証書授与  
 10 修了証書授与

平成30年度福岡県  
 「女性による元気な地域づくり応援講座事業」 かま元気塾  
 他人事ではない、いつかくる！自然災害。 私の防災準備講座

禁煙